

決定したのである。

二、政黨關係

新勢勸組合の政黨關係問題に就ては、既に一言したるが如く、内部に相當論議せられつゝあるところにして、右幹部會にては新組合は政黨政派を超越して純經濟闘争を其の精神となすべきを強硬に主張し、伊藤卯四郎氏の列席さへ誤解を招く虞れありとて抗議したのである。

3、新組合の結成

かゝる情勢にして右兩問題は新組合の産なりとさへ考へられた程であつたが、兎に角八月二十六日結成大會を舉行することゝなつたのであるが、同大會に於ては別報の如く政黨問題に就ては議論紛糾して保留となり、會長問題は鐵聯

同志會に關係なき局外者を推舉することゝなつたのである。而して單一勢勸組合結成計劃の當初に於ては、鐵聯、同志會の兩大組合と合同反對同盟會を母体として全従業員に呼びかけた關係上、少なくとも一萬以上の組合員獲得は容易なりと豫想せられたのであつたが、大會舉行當時の組合員申込は二千名内外なりと傳へられた。

かくて新組合に對する製鐵所全従業員の熱意推して知るべく、且つは從來の鐵聯同志會の最高幹部が何れも第一線より退き（尤も夫れには夫れ相當の理由ありとするも）選出された會長以下の新最高幹部は概ね組合運動の經驗に乏しきが故に新組合の前途は樂觀を許されないのであらう。